

「人(ひと)」辞典の作成

堀江 研二

1. はじめに

本校は、工業高校である。カリキュラムにおける英語の単位は、必修で英語Iを1・2年生で4単位(各学年週2時間)実施するのみである。ただし、選択で2年次にOC(2単位)、3年次に英語II(3単位)を取得できるカリキュラムを組んでいます。

1年次の英語Iの週2時間の内1時間はALTとのティームティーチングの授業を行っています。

生徒は英語の基礎基本が習得できていない生徒が多く、当然授業にも工夫をしています。特に、ティームティーチングでは、ゲーム感覚でできる英語の授業をALTに主となって考えていただいています。授業内容にもよるのだが、生徒たちは楽しく授業に参加しています。

2. ボキャブラリーを増やす授業の中で

昨年度、ティームティーチングの授業で、ボキャブラリーを増やす内容の授業を行った。

それは、AからZの中から、教師がアルファベットを1つ選び、そのアルファベットで始まり、さらに「名詞」「形容詞」「動詞」「～人」などと指示して、単語を書かせる授業であった。たとえば、選んだアルファベットがaならば、animal, angry, act, aunt, 選んだアルファベットがcならば、cream, cool, cry, climberが解答の1例となる。この授業が進んでいく中で、選んだアルファベットがvとなったとき、生徒から質問がきた。人で「訪問者-visitor」はその語尾は-erなのか-orなのかという質問であった。答えはvisitorであるのだが、それはそのスペリングを習っていたから即答できるのである。しかしながら、「このvisitorの語尾が-erなのか、-orなのかにはあるルールがあるのではないか」とそのときふと思った。

かつて、派生語のハンドアウトを作るというき

かけで、接頭辞による反意語作成ルールを調べたことがある。今回は、この生徒からの質問をきっかけに、動詞や名詞に接尾辞をつけて「人」を作るルールを調べてみることにした。

3. 英語学辞典と英和辞典にあたってみると

私の手元にある英語学辞典には、作り方のルールはなく、「人」を表す接尾辞の一覧表(一部説明)のみあった。また、英和辞典には接尾辞の表す意味と一部その作り方のルールが説明されていた。次がその両者をまとめた内容である。

(1) **-an, -ian** 「～に関する、～の性質を有する、～の住人である、～に精通する」

ex. European, republican, Christian, physician

(2) **-ant, -ent** 「動詞につけて、～する人、行為者を表す」

ex. attendant, descendant, resident, student

(3) **-ar** 「～する人」

ex. scholar (schoolから), beggar, burglar, liar (lieから)

(4) **-ard** (説明の記載なし)

ex. coward, drunkard, sluggard

(5) **-ary** 「名詞につけて、～の(に)関する人」

ex. adversary, secretary (secretから)

(6) **-ate** 「～の職務の人」

ex. advocate, delegate, magistrate

(7) **-ee** 「動詞の後で、行為を受ける(される)人、～を与えられた人、特殊な行為をする人、(ときに)する人」

ex. committee, employee, nominee, trainee

(8) **-eer, -ier, -yer** 「名詞につけて、～関係者、～従業者、～を取り扱う人、～を仕事にする人、～をつくる人」

ex. engineer, cashier, courtier, lawyer

- (9) **-er** (eで終わる語には, rのみをつける)
 「動詞につけて, ~する人,」 「名詞につけて, ~出身者, ~の居住者, ~の関係者, ~を職業とする人, ~製作者」 「~の性質をもつ人」 「数詞と連結して, (数が)~ある人」

ex. speaker, hunter, New Yorker, villager,
 baker, archer, old-timer, six-footer

- (10) **-ese** 「国名・地名につけて, ~人(の)」

ex. Chinese, Japanese

- (11) **-ess** 「女性名詞をつくる. この用法は米では急速に消えつつある」

ex. actress, goddess, hostess, princess

- (12) **-ist** (多くは -ize で終わる動詞, -ism で終わる名詞に対応する. 語幹の語尾の母音, 黙字の子音は省略される. ex. cello - cellist, type - typist)

「1. ~する人 ex. cyclist」

「2. ~に巧みな人, 専門家 ex. pianist, biologist」

「3. ~に関係している人 ex. journalist」

「4. ~主義者, 教義者 ex. anarchist」

「5. ~の性格の人 ex. sadist」

- (13) **-ite, -it** 「~に属する, 関係する人」

ex. Darwinite, Jacobite, Jesuit

- (14) **-ive** 「傾向, 性質, 機能, 関係などを表す形容詞起源の名詞をつくる」

ex. captive, native, relative, representative

- (15) **-or** 「~する人」 (主としてラテン系の名詞)

ex. governor, successor, bachelor, sailor

- (16) **-ster** 「~する人, ~である人, ~の人」

ex. gangster, spinster, youngster, oldster

「人」作り方ルール(原則は, 動詞と名詞から「人」への変化)は実際に存在するのか. 上記(9)と(12)にはその作り方が一部説明されていたが… . さらなるルールを見つけるために, 英和辞典で上記の接尾辞を中心に, つぶさに調べてみることにした.

ただし, ルールを導く手がかりとなる語源については調べることができなかった.

4. 名詞や動詞を「人」に変身させよう!

ここには「名詞, 動詞から人に変化する単語」の中で, 3. に示した(1)~(16)に該当する単語を記した. その数が実に多い接尾辞は, 精選して記した. また, その数が少ないものや, 名詞や動詞からの変化のな

い(3)~(6), (10), (11), (13), (14), (16)については割愛した.

「人」への変化ルールは, 3. で辞典に記載のあったルールと調べた結果から推測できたルールを記した(ルールが導き出せなかったものは単語のみ記載). また, 次の()中の番号は3. の(番号)と同じものを示しています.

- (1) **-an, -ian**

[-an]

1. America 「アメリカ」

— American 「アメリカ人」

2. Europe 「ヨーロッパ」

— European 「ヨーロッパ人」

3. republic 「共和国」 — republican 「共和主義者」

[-ian]

- ① **-ic, -ics** で終わる語は, **-ician** としてつくる.

1. arithmetic 「算術」 — arithmetician 「算術家」

2. logic 「論理学」 — logician 「論理学者」

3. magic 「手品(の)」 — magician 「手品師」

4. mathematics 「数学」

— mathematician 「数学者」

5. music 「音楽」 — musician 「音楽家」

【例外】

1. gymnastics 「体操」 — gymnast 「体操選手」

- ② その他

1. Christ 「キリスト」

— Christian 「キリスト教徒」

2. Italy 「イタリア」 — Italian 「イタリア人」

3. Russia 「ロシア」 — Russian 「ロシア人」

- (2) **-ant, -ent**

[-ant] **-tend, -cend, -sist, -habit** で終わる語は, **-ant** をつけてつくる.

1. attend 「世話する」

— attendant 「付添人, 世話人」

cf. attend 「出席する」 — attendee 「出席者」

2. intend 「~するつもりだ」

— intendant 「管理官」

3. ascend 「さかのぼる」

— ascendant (ascendent も可) 「祖先」

4. descend 「下る, 伝わる」

— descendant 「子孫」

[例外]

1. extend 「伸ばす(びる)」
— extender 「伸ばす人」
2. pretend 「ふりをする」
— pretender 「ふりをする人, 偽善者」

[-ent]

1. reside 「住む」 — resident 「居住者」
2. study 「勉強(する)」 — student 「学生」

(7) -ee

1. absent 「欠席させる」
— absentee 「欠席(不在)者」
2. commit 「託す」
— committee 「委員(会)」
3. devote 「ささげる, 熱愛させる」
— devotee 「愛好者, 熱愛者」
4. employ 「雇う」 — employee 「従業員, 使用人」
cf. employer 「雇い主, 使用者」
5. escape 「逃げる」 — escapee 「逃亡者, 脱獄者」

(8) -eer, -ier, -yer

1. auction 「競売」 — auctioneer 「競売人」
2. engine 「エンジン」 — engineer 「エンジニア」
3. mountain 「山」
— mountaineer 「山の住人, 登山家」
4. pamphlet 「パンフレット」
— pamphleteer 「パンフレットを書く人」
5. law 「法律」 — lawyer 「弁護士」

(9) -erをつけて(圧倒的に多いのがこの型)

ここには, よく耳にする -er で「人」をつくる語を記した.

1. attack 「攻撃する」 — attacker 「攻撃者」
2. buy 「買う」 — buyer 「買う人」
3. climb 「登る」 — climber 「登山家」
4. command 「命ずる」
— commander 「指揮者, 司令官」
5. custom 「習慣, 愛顧」 — customer 「顧客」
6. deal 「分配する, 配る」 — dealer 「販売人」
7. defend 「防御する」 — defender 「防御者」
8. design 「デザイン」 — designer 「デザイナー」
9. destroy 「破壊する」 — destroyer 「破壊者」
10. drink 「飲む」 — drinker 「飲む人」

11. entertain 「楽しませる」
— entertainer 「楽しませる人, 芸人」
12. hold 「持っている」 — holder 「所有者」
13. keep 「守る」 — keeper 「守る人」
14. labor 「労働」 — laborer 「労働者」
15. lead 「先導する」 — leader 「先導者」

[スペリングに注目]

①語尾が母音+子音はその子音字を重ねて -er をつける

1. begin 「始まる(始める)」 — beginner 「初心者」
2. control 「統制する」 — controller 「統制する人」
3. drop 「落とす」 — dropper 「落とす人」
4. refer 「言及する」 — referrer 「言及する人」
5. win 「勝つ」 — winner 「勝者」

②語尾が子音+eで終わるときは -r をつけてつくる(この型も圧倒的に多い)

ここには, よく耳にする -er で「人」をつくる語を記した.

1. advertise 「広告する」 — advertiser 「広告主」
2. announce 「公表する」
— announcer 「アナウンサー」
3. approve 「賛成する」 — approver 「賛成者」
4. believe 「信ずる」 — believer 「信ずる人」
5. challenge 「挑戦する」 — challenger 「挑戦者」
6. chase 「追いかける」 — chaser 「追撃者」
7. consume 「消費する」 — consumer 「消費者」
8. dance 「ダンス(する)」 — dancer 「ダンサー」
9. dine 「食事する」 — diner 「食事する人」
10. dive 「飛び込む, 潜る」 — diver 「ダイバー」
11. invade 「侵入する」 — invader 「侵略者」
12. joke 「冗談」 — joker 「冗談を言う人」
13. juggle 「曲芸する」 — juggler 「曲芸師」
14. lecture 「講義」 — lecturer 「講義者」
15. lose 「失う」 — loser 「敗者, 失敗者」

(12) -ist (-yst)

① -logy で終わるときは -logist にする. -logist は「学者」を示す.

1. anthropology 「人類学」
— anthropologist 「人類学者」
2. biology 「生物学」 — biologist 「生物学者」

3. ethnology 「民族学」
— ethnologist 「民族学者」
- ② -ism(～主義)は -ist(～主義者)に変えてつくる。
1. fascism 「ファシズム」— fascist 「ファシスト」
 2. fatalism 「運命論」— fatalist 「運命論者」
 3. futurism 「未来派」— futurist 「未来派芸術家」
 4. journalism 「ジャーナリズム」
— journalist 「報道記者」
 5. lyricism 「叙情性」— lyricist 「作詞家」
 6. optimism 「楽天主義者」
— optimist 「楽天主義者」
 7. tourism 「観光旅行」— tourist 「観光客」
- ③ -ize で終わる動詞は -ist に変えてつくる。
1. apologize 「わびる」— apologist 「弁解者」
cf. apology 「わび, 謝罪」からの変化も可
 2. dramatize 「劇化される」
— dramatist 「劇作家」
 3. economize 「節約する」
— economist 「経済学者, 倹約家」
 4. finalize 「完結させる」
— finalist 「決勝戦出場者」
 5. idealize 「理想化する」— idealist 「理想主義者」
cf. idealism 「理想主義」からの変化も可
 6. moralize 「道徳的に説明する」
— moralist 「道徳主義者」
cf. moralism 「教訓, 道徳主義」からの変化も可
 7. nationalize 「国家的なものにする」
— nationalist 「国家主義者」
cf. nationalism 「国家主義」からの変化も可
 8. novelize 「小説にする」— novelist 「小説家」
 9. rationalize 「合理化する」
— rationalist 「合理主義者」
cf. rationalism 「合理主義」からの変化も可
 10. realize 「現実化する」— realist 「現実主義者」
cf. realism 「現実主義」からの変化も可
- {例外}
1. organize 「組織する」— organizer 「組織者」
 2. sympathize 「同情する」
— sympathizer 「同情者」
 3. synthesize 「総合する」
— synthesizer 「統合する人」
 4. systematize 「組織化する」
— systematizer 「組織化する人」

④ -al で終わる語は -ist をつけてつくる。ただし、その多くが②や③へ派生可能な単語である。

ex. fatalist finalist idealist
journalist medalist moralist

⑤ 楽器(ピアノや弦楽器)から「奏者」への変化

1. cello 「チェロ」— cellist 「チェロ奏者」
2. flute 「フルート」— flutist 「フルート奏者」
3. guitar 「ギター」— guitarist 「ギタリスト」
4. organ 「オルガン」— organist 「オルガン奏者」
5. piano 「ピアノ」— pianist 「ピアニスト」

⑥ その他

1. agriculture 「農業」
— agriculturist 「農業経営者」
2. art 「芸(美術)」— artist 「芸術家, 画家」
3. botany 「植物学」— botanist 「植物学者」
4. cartoon 「漫画」— cartoonist 「漫画家」
5. chemistry 「化学」— chemist 「化学者」

(15) -or をつけて

① 語尾が子音(アクセントのない弱音の [i], [ə] を含む)+t で終わるときは -or をつけてつくる

1. act 「演ずる」
— actor (actress は女性型) 「俳優(女優)」
2. audit 「監査(する)」— auditor 「監査役」
3. attract 「引きつける, 魅了する」
— attractor 「魅力のある人」
4. arrest 「逮捕する」
— arrestor (arrestor も可) 「逮捕する人」
5. collect 「収集する」— collector 「収集家」
6. connect 「つなげる」
— connector (connector も可) 「連結する人」
7. correct 「訂正する」— corrector 「訂正者」
8. credit 「貸し」— creditor 「貸し主, 債権者」
9. debt 「借金」— debtor 「借り主, 債務者」
10. detect 「見つける」— detector 「発見者」

{例外}

1. drift 「漂う」— drifter 「放浪者」
2. fight 「戦う」— fighter 「戦士」
3. hunt 「狩る」— hunter 「狩りをする人」

[r- で始まり -t で終わる語は -ter が多い]

4. repent 「後悔する」— repenter 「後悔する人」
5. report 「報告(する)」— reporter 「報告者」

*次は語尾が母音(特に長母音と二重母音)+-tで終わる単語である。-erをつけてつくる。

1. cheat 「欺く」 — cheater 「欺く人」
2. eat 「食べる」 — eater 「食べる人」
3. greet 「挨拶する」 — greeter 「挨拶する人」

②語尾が -ate, -ute で終わるときは, -ator, -utor とする

1. administrate 「治める」
— administrator 「行政官」
2. agitate 「激しく動かす」 — agitator 「扇動者」
3. animate 「アニメ化する」 — animator
(animater も可) 「アニメ作家」
4. anticipate 「予想する」
— anticipator 「予想する人」
5. appreciate 「鑑賞する」
— appreciator 「鑑賞する人」
6. create 「創造する」 — creator 「創造者」
7. decorate 「飾る」 — decorator 「装飾する人」
8. dominate 「支配する」 — dominator 「支配者」
9. fascinate 「魅惑する」
— fascinator 「魅惑する人」
10. illuminate 「照らす」 — illuminator 「照明係」
11. imitate 「まねをする」
— imitator 「まねをする人」
12. indicate 「指し示す」 — indicator 「指示する人」
13. initiate 「始める」 — initiator 「創始者」
14. meditate 「深く考える」 — meditator 「黙想家」

③語尾が -ail で終わるときは, -or と -er がある。

1. jail 「刑務所, 拘留する」
— jailor (jailer も可) 「看守」
2. sail 「航海する」 — sailor 「航海者」
3. tail 「燕尾服」 — tailor 「仕立屋」
4. nail 「くぎを打つ」 — nailer 「くぎを打つ人」

④語尾が -vise, -vive で終わるときは, -visor, -vivor とする

1. advise 「忠告する」
— advisor (adviser も可) 「忠告者」
2. devise 「考案する, 遺贈する」
— deviser 「考案者, 遺贈者」
(「考案者」のときは deviser も可)

⑤その他

1. compete 「競争する」 — competition 「競争」
— competitor 「競争する人」

2. conquer 「征服する」 — conqueror 「征服者」
3. jury 「陪審」 — juror 「陪審員」
4. succeed 「継承する, 相続する」
— successor 「継承者, 相続人」

(その他) (1)~(16)以外の語尾を持つ「一人」の例

1. agency 「代理店」 — agent 「代理人」
2. democracy 「民主主義, 民主政治」
— democrat 「民主主義者」
3. infancy 「幼年時代」 — infant 「幼児」
4. architecture 「建築」 — architect 「建築家」
5. grocery 「食料雑貨店」
— grocer 「食料雑貨店主」
6. poem 「詩」 — poet 「詩人」
7. profession 「職業」 — professional 「職業人」
⇔ amateur 「アマチュア」
8. surgery 「外科」 — surgeon 「外科医」

5. おわりに

この「人(ひと)」辞典は, その作成を思い立ってから, 完成するまでにはかなりの日数を要した。実際は, 「完成」は「(完成)半ば」かもしれない。すなわち, 私が見つけだしたルールは, 「絶対ではなく多くは当てはまる」域を脱していないのかもしれない。しかしながら, 生徒からこの「人」への変化を調べるといふきっかけをつくってもらい, ここまで調べることができたことには, 喜びがあった。

本校の生徒は, 英語の基礎基本が十分に習得できていない生徒が多い。それが実態であるが, 今回のようなきっかけが, 共に学び会う教師と生徒の次のステップになると考える。この「人(ひと)」辞典は, 本校用につくりかえ, 生徒へと返していきます。さて, 次はどんな「きっかけ」を生徒がくれるのか。

参考文献

- 『ジーニアス英和辞典』 小西友七・南出康世編集主幹
大修館書店
『現代英語学辞典』 石橋幸太郎編集代表 成美堂
『詳解 英文法辞典』 井上義昌編 開拓社
『ランダムハウス大英和辞典』 小学館

(岐阜県立可児工業高等学校教諭)